（仮称）男女共同参画プラン日光(案)に関する意見募集の結果について

１．意見募集の実施状況

（１）意見の募集期間

平成１９年８月６日（月）～９月５日（水）

（２）意見の提出状況

５名（１０件）

２．意見の概要と市の考え方

（１）計画の趣旨について(１件)

	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	合併により新日光市として男女共同参画プランを作成するのだから、計画策定の趣旨に今までの５市町村の取組みを記載したほうが分かりやすいのではないかと思いました。	日光市として合併後、初めてのプランであるということを印象付けることにより、一体感の醸成が図られるものと考えます。 公表したプラン（案）１ページ１０行目「・・・、男女共同参画社会の実現を２１世紀の最重要課題と位置づけました。」の後に、次のとおり加筆いたします。「平成１８年３月２０日、近隣５市町村の合併により誕生した“日光市”は、これまで、それぞれの地域に合った男女共同参画社会づくりを推進し取組んできました。しかし、いまだに人々の意識や行動、社会慣行の中に、男女の性別による差別や固定的な役割分担意識が存在し、多様な生き方の選択を狭め、個性を発揮する上での障害となっています。」

（２）基本目標Ⅰ　意識を変えよう　について（３件）

<table>
<tr><th></th><th>意見の概要</th><th>意見に対する市の考え方</th></tr>
<tr><td>1</td><td>女性に対するあらゆる暴力の根絶とあるが、男性に対するあらゆる暴力の根絶も盛り込んでほしい。男性に対してどのようなことが暴力であるのか、あらゆる観点から議論して明確にしてほしい。計画全般にも言えることだが、女性だけへの施策をうたうのでは男女差別ではないか。男女共同参画社会に反するのではないか。</td><td rowspan="2">男女共同参画プランでは、性別に関わりなく、一人ひとりが個人として、輝いて生きることのできる社会づくりをめざしています。しかし、内閣府の男女共同参画白書によると、配偶者間における殺人、傷害、暴行の被害者の９１．７％は女性であり、セクシュアル・ハラスメントの相談者の８０．０％は女性労働者となっています。このことからも被害者の多くは女性であります。そのことは、国際社会においても解決すべき共通の課題として捉えられています。女性に対する暴力は、男女共同参画を阻害する重大な社会問題です。
以上のことから、当市の男女共同参画プランにおいては、「女性に対するあらゆる暴力の根絶」として推進していきたいと考えております。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>ドメステイック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントはどうしても男性から女性へのものと見られがちだが、女性から男性へ行なわれ男性が被害を訴える事例もある。女性に対する暴力、セクハラの根絶を働きかけるだけではなく、女性も自分の行動や言動がいつ、不快と見られるかわからないことを注意</td></tr>
</table>

	すべき。	
3	男女共同参画とはいいますが、基本は母親がしっかりと“お母さん”をやることです。質の良いお母さんが質の良い子どもを育てていく、この流れが大切です。まずは母親教育です。質の良いお母さんが元気で幸せに暮らすにはどうしたらよいか、考えていく先に見えてくる問題点が、様々な改革につながっていくと思います。まずは、「質の良い母親になることに気付くこと→パートナーとの和を持つ→家族の輪を持つ→地域、学校へと広げていく」ことですね。	乳幼児期から思春期までにおける男女共同参画の視点に立った家庭での教育は、極めて重要です。そのためには、母親、父親、祖父母等、家族を構成する各個人の意識づくりが必要です。家族がお互いに思いやり、協力し合うことから人権意識を育み、家庭から地域社会へと広がっていくことを図る施策として、「家庭教育学級や出前講座」など、様々な学習機会を設けるとともに、「広報活動の展開」をプランに位置づけております。

(３)基本目標Ⅱ　環境をつくろう　について(２件)

	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	子育て支援では、男性が育児休暇を取りやすい環境をつくれるよう周囲も協力するべきだと思う。仕事の場での男女共	市民アンケートの「男女の役割について」の質問では、「男女とも仕事を持ち、家事、育児、介護は共同して行なうのがよい。」と回答した人は７６．１％と最も高くなっていますが、「育

	同参画だけではなく、生活の場での男女共同参画も今後は重要になってくるのではないだろうか。	児や子どもの教育をいつもしている」人の割合は、男性１２．５％、女性８７．５％などと、役割分担の実態では、家事等の労働の多くを女性が担っています。この背景として、男性の働き方も関連していると思われます。 また、育児休業法が整備されていますが、制度があるにもかかわらず、男女ともに取得できない状況があります。子育て期の男女が、安心して働き続けることのできる職場環境の整備は、まだまだ不十分な状況です。 このため、国においては、仕事と子育ての両立支援を進めるための「次世代育成支援対策推進法」を制定するとともに、これまでの働き方を見直し、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和）の実現を可能にするための対策に取り組んでいるところです。 ご指摘のとおり、この対策を進めるためには、何よりも企業での取組みが必要不可欠です。若い世代を中心とした定住促進、人口増を図っていくためにも、雇用労働機会の確保と労働環境の整備が必要です。企業における男女共同参画意識の推進が図れるような働きかけとともに、多様なニーズに対応できる保育サービスの充実を図るための施策をプランに位置付けております。
2	企業への意識改革は何よりも推進していかなければなりません。各企業で保育所を設置、運営することはとても大切です。社員を大切にしている会社では、社員が良い仕事をするというデータも出しています。そこに気付くことです。日光市としては、地元企業へのアピールをするべきです。そうすれば、若者が日光市に留まり、活発になり元気になり、人口減も食い止められることになるのです。企業にがんばってもらうまでは、市の保育所の充実です。	

(４)プラン全体について（２件）

	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	“連携”という用語が多用されていますが、形式的なものではなく相互の機能が十分発揮・活用し合えるような実質的関係が望まれます。	男女共同参画社会づくりは、あらゆる分野の機関や団体等との連携なくして進めることはできないと認識しております。ご意見のとおり、男女共同参画社会の実現に向けてプランを推進してまいります。
2	余白にわかりづらい言葉の意味が、詳しく記載してあるのが良いです。わかっていたつもりでも勘違いしている言葉もあり、“配偶者等からの暴力”など、説明が細かくて大変わかりやすいです。	用語につきましては、国の基本計画等に基づいた内容で掲載いたしました。

(５)その他の意見（２件）

	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	同じ種族でありながらどの生物もオスとメスはすべてが異なる。同じ人間でありながら国によって婚姻制度も異なる。一部の価値観から作成された男女共同参画社会を築き上げた先に日本人はその社会の中で絶滅することな	男女共同参画社会は、性差を否定したり、男女の区別をなくして中性化を目指そうとするものではありません。社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があります。このような男性、女性の別を示す概念として、「社会的性別」（ジェンダー／ｇｅｎｄｅｒ）と使用されています。

	く、繁栄していけるのか。	この「社会的性別」が性差別、性別による固定的役割分担、偏見等につながっている場合があります。 男女共同参画社会は、社会的性別にとらわれることなく、一人ひとりが個人として能力を発揮することが可能で、輝いて生きることのできる社会づくりをめざしています。
2	今日の社会を反映した市民の抱える問題は複雑多様を極め、一つの窓口で解決することはできません。次々に複数の窓口の案内を受け結局、元の窓口に戻されるという状態が続けられています。この間、問題は長期化・深刻化し、相談者の苦しみは増大の一途を辿ることとなります。“地域のことは地域で”をモットーとした、市民が身近に安心して利用できる「総合的苦情処理相談センター」の設置を提案させて頂きます。体制については、識見を踏まえた豊かな人材の確保等々です。	男女共同参画プランでは、ＤＶやあらゆるハラスメント、虐待被害者等への相談・支援体制の充実と、相談員の専門性向上、二次的被害を与えることのないような相談窓口職員の資質向上を目標として掲げています。市役所内の各課や関係機関において、密なる連携を取り合い、問題解決に努めていきます。 ご意見は、今後の市役所内の苦情解決のための相談体制づくりに活かしていきたいと思います。